

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略1:誰もが安心して暮らせる環境づくり

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	① 安心の地域医療体制の構築	保健福祉課	・市立診療所等は老朽化による施設整備修繕に係る財政負担が著しく、耐震基準も満たしていない状況。 ・H26医療保健対策協議会から示された「市立診療所等のあり方について」の答申を踏まえ、移転改築に向けて、平成29年6月から平成31年3月まで移転改築検討協議会を開催。 ・社会医療法人制度の活用状況など豊生会の運営実績や交通体系の議論等、新たな事象の変化を踏まえ、平成30年7月に移転場所を「旧若菜中央小学校他」に決定。 ・平成31年3月に実施した指定管理者とのヒアリングを踏まえ、基本計画を策定。 ・R2.10に救急告示医療機関となった市立診療所を中核として、市医師会と連携を図りながら、市内の救急医療体制の確保を図っている。	移転改築事業基本計画	・市立診療所等を中核とし、市内医療機関との連携を図ることにより多様な医療サービスを提供する。 ・高齢化社会に対応した診療科目を充実。病床維持と市内の救急医療体制で中心的な役割を担う。	・老朽化が著しい市立診療所の移転改築に着手に取り組み、社会医療法人制度の活用により、専門医療の充実を図るとともに、初期救急医療体制において市内医療機関の中核的な役割を果たす。 ・市医師会、豊生会との連携を強化し、地域医療確保や地域包括ケアシステム推進を図る。 ・基本計画を踏まえ、H31基本設計、R2実施設計を実施。R3から建設工事を開始し、R5の供用開始を目指す。	—	—	—	・H20.12地域医療ビジョン策定、H23.11医療保健対策協議会(延13回)、H26.2同協議会からの答申 ・H26.3市の方針決定(答申尊重)、H29.3再生計画の抜本見直しへの関連予算の盛り込み(25.6億円) ・H29.6～移転改築検討協議会開催、H30.3、H30.7移転改築に係る意見交換会の開催 ・H30.3建設地区の決定、H30.7建設場所の決定 ・H31.3基本計画素案の策定、基本計画で整備内容を具体化 ・R1は基本設計、R2は実施設計を実施 ・R3は着工 ・事業効果 診療科目の充実(H28.4 5診療科→R3.3 9療科)、利用者の増加(外来実績:H28 15,981人→R1 17,149人)、市内救急出場496件のうち市内医療機関搬送157件(うち市立診療所112件)(R3.1～12)	○移転改築事業 移転計画の策定、現診療所の維持・管理(緊急性を勘案)、医療機器の整備	○移転改築事業 建設工事継続、医療機器の選定、移転計画策定 ○救急医療体制整備事業／休日・夜間救急医療体制補助事業	○移転改築事業 R5 建設工事(5月末)、医療機器等搬入、開院準備 ○救急医療体制整備事業／休日・夜間救急医療体制補助事業 継続
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	② 若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備	建設課	市はかつての炭鉱住宅を大量に保有しており、公営住宅数が多い反面、民間賃貸住宅が少ない現状にある。 (市営住宅管理戸数<令和3年3月31日現在>:3,172戸、民間賃貸住宅数:205戸) このため、平成25年度から民間賃貸住宅の建設助成を行っており、平成25年度から令和3年度までの間に106戸の住宅が建設され、民間賃貸住宅の建設促進に一定程度の成果を上げているが、依然として物件数は不足している。 また、これまで建設された住宅は主にファミリー向けとしての基準を設けていたために、単身世帯の占める割合が多い若年層や、間取りの広さよりも収納スペースやデザイン等を総合的に判断する傾向が強い女性にとっては、希望する条件に合う物件が少ない状況にある。	—	・これまで市で実施してきた民間賃貸住宅建設助成の条件を調整し、部屋数や家賃設定、収納やデザインなど、若年層や女性のニーズに合った住宅の建設を促進する。 ・市内就業者数の約17%の610人以上が市外からの通勤者であり、こういった層の夕張定住の促進を図る。 ・「安心して暮らせるコンパクトシティゆりばり」の実現のため、住宅の集約を推進する。	民間賃貸住宅の建設促進のため、事業者の公募・助成を行うとともに、市の関連施策と一体的に運用することにより、多様なニーズに対応する。 ・平成29年度から実施する新規住宅取得、リフォーム補助や除却補助とのパッケージを意識するとともに、需要動向を踏まえた多様な賃貸住宅の整備に対する助成を実施。 ・高校生までの子供がいる世帯の入居要件を緩和。	R6まで20戸建設	0戸建設(令和3年度末現在)	0%	・民間賃貸住宅建設実績<H28:30戸、H29:16戸、H30:16戸、R1:8戸> ・地区別には清水沢地区に54戸、本庁・若菜地区に16戸を建設しており、地区のコンパクト化に一定程度寄与。 ・平成28年度から令和元年度までに建設された70戸はすべて満室となっており、入居者の約70%が市外からの転入者である。また、女性は入居者の約30%を占めている。	建設場所として市有地を売却し事業を実施しているが、建設候補地を選定することが難しくなっている状況から、今後補助制度を継続していく場合、事前に建設用地を選定することが必要。	・民間賃貸住宅建設用地の調査	・補助内容について、継続するか見直しをするか検討する。 ・財源、予算の確保等様々な課題が山積・単身民賃がない状況だったが、現在(AKIRA等)は充足している。 ・今後は子育て世帯の移住促進を重点政策(高校魅力化とも連動) ・需要と供給の問題(市営住宅が低家賃のため民賃の需要が減少している傾向がある)
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	③ 子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業	建設課	市はかつての炭鉱住宅を大量に有するという事情から、圧倒的に公営住宅の数が多く、持ち家が少い状況にある。人口の社会減少を抑制するためにも、子育て世帯等の定住を図ることは喫緊の課題である。 また、高齢化率が50%を超える本市では、施設入所や自然減少による空家が増加しており、その活用も課題となっている。	—	・新築、中古住宅取得、リフォームに対する住宅取得等補助金を創設し、公営住宅に類らないかたちでの定住化を図る。	・平成29年度から新築住宅取得、中古住宅取得、リフォーム補助を実施済み。金融機関からの協力も活用し、住宅ローンの軽減などを組み合わせて、住宅取得向上を目指す。	R6まで35件	29取得(令和3年度末現在)	82%	・平成29年度から新築住宅取得費補助金、中古住宅取得費補助金、リフォーム工事費補助金制度を創設。 ・補助実績<H29:新築1件、中古7件、リフォーム6件>、<H30:新築2件、中古4件、リフォーム5件> ・<R1:新築1件、中古8件、リフォーム4件>、<R2:新築3件、中古4件、リフォーム6件>、<R3:新築1件、中古2件、リフォーム13件> ・新築及び中古住宅取得費補助による市外からの転入実績<H29:1件、H30:0件、R1:0件、R2:0件、R3:1件> ・新築、中古住宅取得の90%が子育て世帯による取得。	建設場所として市有地を売却し事業を実施しているが、建設候補地を選定することが難しくなっている状況から、今後補助制度を継続していく場合、事前に建設用地を選定することが必要。	・他市町村の補助制度を調査し、補助額等の見直しを行う	・補助内容について、継続するか見直しをするか検討する。
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	④ 情報発信強化による不動産の流動化促進	建設課	現に「夕張に住みたい」という希望を持つ人自ら住居情報を検索できるように、また、新たな移住・交流希望を喚起するために、情報発信体制の整備を行う。	—	・情報発信体制を整備し、空家の利活用により、移住・定住の促進と空家の抑制を目指す。	・令和元年度5月に空家対策等計画を策定。	—	—	—	・H28:空家実態調査を実施。[補助実績]除却8件。 ・H29:空家所有者調査を実施。[補助実績]中古取得6件、リフォーム7件、除却8件。 ・H30:空家対策協議会、空家等対策連絡会議の設置。空家等対策計画の策定。 [補助実績]中古取得4件、リフォーム5件、除却9件。 ・R1:[補助実績]中古取得8件、リフォーム4件、除却17件 ・R2:[補助実績]中古取得4件、リフォーム6件、除却15件 ・R3:[補助実績]中古取得2件、リフォーム13件、除却9件	・情報発信を進めていくための準備として、市内に約960戸あると推計される空家の実態調査を行うことに重点が置かれることとなる。今後は本格的な調査を行って空家実態の把握に努める。 ・「夕張市不動産情報HP」をどのように運用していくかの検討。 ・市内宅建業者との連携についての検討。	・計画に基づく空家への対応。(補助予定件数) ・中古住宅取得費補助[最大100万円]:計5件(市民2件、転入者3件) ・リフォーム工事費補助金[最大50万円]:計5件 ・市内宅建業者との連携についての検討。	・補助内容について、継続するか見直しをするか検討する。

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略1:誰もが安心して暮らせる環境づくり

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	⑤ 認定こども園等を活用した子育て支援体制の強化	生活福祉課	<p>■認定こども園整備 本市における教育・保育の状況については、子どもの出生数の減少に伴う利用者数の減に加え、各認可保育所(新夕張・清陵・沼ノ沢)・市立ユーハロ幼稚園の各施設の老朽化など、様々な課題を抱えていたため、その対策として、教育・保育を一体的に提供する認定こども園の設置が検討されてきた。</p> <p>市では平成27年度に認定こども園の整備について方向性を決定し、平成28年度に市内中心部に位置し、清陵保育園と市立ユーハロ幼稚園を統合再編する形で、旧清水沢小学校跡地(清水沢3丁目)を建設予定地として決定した。</p> <p>平成29年度は夕張保育協会をはじめとする関係者とワークショップを開催し、夕張市認定こども園基本設計を策定した。平成30年度に実施設計、令和元年度に建設工事に着手し令和2年度に完成した。</p> <p>市が整備した施設を貸与し、社会福祉法人夕張保育協会が設置・運営する幼保連携型認定こども園の「ゆうばり丘の上こども園」が令和3年4月1日の開園について、北海道から認可を受けた。整備終了につき令和3年4月1日開園。</p> <p>■子ども・子育て支援事業(一時預かり事業:余裕活用型) 平成27年度、子ども・子育て支援新制度開始にあたり、夕張市子ども・子育て支援事業計画策定するために実施したニーズ調査により求められていた一時預かり事業を平成28年度以降、認可保育所(当初は沼ノ沢保育園のみ、令和2年度から認可保育所3園も対象施設となる)において、認可定員の範囲内で預かりをする余裕活用型として実施している。令和3年4月からは、新たに開設した幼保連携型認定こども園「ゆうばり丘の上こども園」も含め実施している。</p>	夕張市認定こども園施設整備基本計画、第2期夕張市子ども・子育て支援事業計画	保育・幼児教育の中心的役割を担う認定こども園の設置により、総合的な教育・保育サービスの質の向上及び多様化を図り、市内の子育て環境を充実させることを目的とする。	<p>■認定こども園整備 ・平成28年度 認定こども園施設整備基本計画を策定 ・平成29年度 基本設計策定 ・平成30年度 実施計画策定 ・令和元年度 建設工事着工 ・令和2年度 施設名称を「ゆうばり丘の上こども園」と決定。建設工事完了、施設貸与による認定こども園の設置・運営として事業者を夕張保育協会と決定。北海道から令和3年4月1日開設の幼保連携型認定こども園の認可(設置者:夕張保育協会) ・令和3年度 ゆうばり丘の上こども園開設</p> <p>■子ども・子育て支援事業(一時預かり事業:余裕活用型) ・平成28年度 一時預かり事業(余裕活用型)開始 対象施設1か所 沼ノ沢保育園 ・令和2年度 対象施設3か所 沼ノ沢保育園、清陵保育園、新夕張保育園 ・令和3年度 対象施設3か所 ゆうばり丘の上こども園、沼ノ沢保育園、新夕張保育園</p>	認定こども園整備分:R2建設	R2完成	100%	<p>■認定こども園整備 ・令和3年度 令和3年4月1日幼保連携型認定こども園ゆうばり丘の上こども園開設 ■子ども・子育て支援事業(一時預かり事業:余裕活用型) ・延べ利用児童数 R3年:20人 R2年:1人 R元:15人 H30年:7人 H29年:1人 H28年:5人</p>	夕張保育協会と連携し、認定こども園等を活用した子育て支援事業の推進を図る。	継続予定(個別事業等について適宜必要な見直しを行う。)	継続予定(個別事業等について適宜必要な見直しを行う。)
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	⑥ 子どもたちの居場所づくり	生活福祉課	<p>■子どもたちの居場所づくり 留守家庭等の小学生を対象とした放課後の居場所として市内に学童クラブが2カ所(清水沢・若菜)設置されている。平成28年度から待機児童が発生したことから、沼ノ沢以南の小学生を対象に事業者による居場所事業を委託し居場所を確保した。また、令和2年3月に開設した拠点複合施設「りすた」に子育てスペース「ゆうばりっ子ひろば」が設置され、未就学児や小学生の遊び場として活用されている。</p> <p>■児童遊園管理 平成28年度に市内に約40箇所に点在する公園について、それぞれの担当課が連携し、利用状況などについて情報交換を行った。生活福祉課が所管の児童遊園9箇所のうち4箇所(本町3丁目・鹿の谷緑ヶ丘・日吉・真谷地)について用途を廃止し遊具を撤去した。一方、自主管理が可能で、且つ、多くの利用が見込める地域の公園については遊具の新設を検討し、平成28年度に沼ノ沢児童遊園、平成29年度に南清水沢2丁目児童遊園に遊具を設置した。</p>	第2期夕張市子ども・子育て支援事業計画	放課後の子どもたちの居場所や未就学児の遊び場、その保護者の集える場所を確保し、安心、安全な子育て環境の充実を図る。	<p>■子どもたちの居場所づくり 学童クラブ 2か所(清水沢・若菜)対象小学生 定員 各25名 子どもたちの居場所事業「げんき」 対象小学生 定員 20名 拠点複合施設「りすた」子育てスペース「ゆうばりっ子ひろば」対象:未就学児とその保護者、小学生</p> <p>■児童遊園管理 ・用途別に公園を所管する土木水道課、建設課、生活福祉課において協議を進める。 ※土木水道課都市計画土木係(平和運動公園など都市公園系) ※建設課住宅管理係(市営住宅に附属する公園) ※生活福祉課(児童遊園5か所/鹿の谷・南清水沢2丁目・南清水沢4丁目・沼ノ沢・紅葉山) ・生活福祉課所管の児童遊園は、既存施設の活用を図りながら、遊具の修繕や地域ニーズを見極め、統廃合・再配置に向けた検討を継続する。</p>	—	—	—	<p>■子どもたちの居場所づくり ・学童クラブ利用者(2か所) 月平均 R3年:28人 R2年:27人 R元年:34人 平成30年:30人 ・子どもの居場所事業「げんき」 登録者 R3年: 7人 R2年:10人 ・拠点複合施設「りすた」ゆうばりっ子ひろば 月平均 R3年:419人 R2年:209人</p> <p>■児童遊園管理 ・平成30年度に関係課担当者で会議を持ち、設置公園等の現状について情報共有を行った。 ・既存公園について地域ニーズを見極めながら遊具設置を行った(平成28・29年度)。 ・令和元年度沼ノ沢児童遊園の滑り台修繕を行った。沼ノ沢児童遊園は、沼ノ沢保育園の散歩コースにあり、幼児が利用。</p>	<p>■子どもたちの居場所づくり ・拠点複合施設「りすた」ゆうばりっ子ひろばの認知度を上げ、利用者の増加を図る。 ・子どもの居場所事業「げんき」については、登録者がいるため、事業を継続する。引き続き、今後の必要性を検討する。</p> <p>■児童遊園管理 ・所管する公園の設置目的や管理方法がそれぞれ違うことで、市民とのニーズにも乖離があることから、市民ニーズを的確に把握するとともに、既存公園の情報発信を含め、所管間で連携した対応が求められる。 また、夕張市公共施設等総合管理計画のマネジメント基本方針に基づき、現状に即し長期的な視点に立った、公園の維持・統廃合・再配置の考え方を整理する必要がある。</p>	・拠点複合施設「りすた」ゆうばりっ子ひろばの認知度を上げ、利用者の増加を図る。 ・子どもの居場所事業「げんき」については、登録者がいるため、事業を継続する。引き続き、今後の必要性を検討する。	・継続予定(個別事業等について適宜必要な見直しを行う。)

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略1:誰もが安心して暮らせる環境づくり

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	⑦ 子育て世帯の経済的負担の軽減	生活福祉課	<p>■結婚新生活支援事業 本市の人口は減少傾向にあり、地域での少子化対策が必要となっている。その一環として、経済的な理由により結婚に踏み出せない低所得者を対象に、婚姻に伴う新生活を開始するための住宅賃借費用と引っ越し費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安を解消し、未婚化、晩婚化に歯止めをかけることを目的に、平成29年度より結婚新生活支援事業を実施している。</p> <p>■保育入所児童扶助 (1)多子世帯の保育料の軽減 北海道の施策の1つとして、3号認定子ども(3歳未満児)の第2子目以降の保育料を無償化(所得制限640万円未満)とする補助事業が平成29年度より開始され、同年、夕張市において子育て世帯の経済的負担の軽減のため、本補助金を活用し事業を実施している。 また、市独自の多子軽減として、施設に同時入所した場合の2子目以降について、所得制限なしで保育料を無料としている。</p> <p>(2)副食費の軽減 令和元年10月1日から実施された幼児教育・保育の無償化において、認可保育所等を利用する3歳児から5歳児に係る保育料が無償化となったが、これまで保育料の一部として徴収されていた副食費(おかず・おやつ代)については、一定以上の年収の世帯の場合、月額4,500円を目安に保育所が直接徴収することとなった。副食費の徴収に伴い、保育料の無償化と言われながら、保護者負担が無料にならない世帯があることや、市独自に保育料を軽減している世帯において、負担する額が増える世帯があるため、保護者の経済的負担に配慮し、夕張市における子ども・子育て支援環境の更なる充実を図るため、夕張市独自の取組として、副食費の徴収が必要となる世帯に係る副食費の無償化に向け、4,500円を限度に市が負担している。</p> <p>■乳幼児等医療給付事業 平成25年10月から、小学校就学前(6歳の誕生日後、最初の3月31日まで)児童に係る医療費を自己負担なしの無料化を図り、平成29年8月からは対象を中学生(15歳の誕生日後、最初の3月31日まで)までに拡大している。※所得制限による対象外あり。</p>	-	<p>■結婚新生活支援事業 経済的な理由により結婚に踏み出せない低所得者を対象に、婚姻に伴う新生活を開始するための住宅賃借費用と引っ越し費用に対し、最大30万円を補助することで、結婚に伴う経済的な不安を解消し、未婚化、晩婚化に歯止めをかけ、少子化対策に資することを目的とする。</p> <p>■保育入所児童扶助 多子世帯の保育料及び副食費など子育て世帯の経済的負担を軽減することにより、夕張市で子どもを産み育てたいと思える環境を整備する。</p> <p>■乳幼児等医療給付事業 子育て世帯の経済的負担を軽減することにより、夕張市の福祉施策を充実させる。</p>	<p>■結婚新生活支援事業 平成29年度より実施。 R3事業周知方法:広報ゆうぱり5月号、1月号、夕張市HPに掲載。 ポスター 市内金融機関・企業・病院・ふれあいサロン・商店街等(40か所) チラシ 市内金融機関・企業・病院・ふれあいサロン等 (33か所)</p> <p>■保育入所児童扶助 多子世帯の保育料軽減…北海道の施策分及び市独自の多子軽減 平成29年度より実施</p> <p>■乳幼児等医療給付事業 平成25年10月から小学校就学前児童の医療費無償化。 平成29年8月から無償化を中学生まで拡大。</p>	-	-	-	<p>■結婚新生活支援事業 支給決定件数 R3年4件 R2年1件 R元年2件 H30年0件 H29年4件 ※R3対象年齢39歳以下、夫婦合算所得400万円未満 R2対象年齢34歳以下、夫婦合算所得340万円未満</p> <p>■保育入所児童扶助 多子世帯の保育料軽減…北海道の施策分及び市独自の多子軽減を継続して実施</p> <p>■乳幼児等医療給付事業 北海道基準及び市拡大分の軽減策を継続して実施。</p>	<p>■結婚新生活支援事業 :人口割合として、補助対象である若年層が少なく、また、出会の場も少ない。 ■保育入所児童扶助 :特になし ■乳幼児等医療給付事業:特になし</p>	・事業継続する。	・事業継続する。
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	⑧ 高齢者の活動の場・居場所づくり	保健福祉課	<p>○人口流出や高齢化が進む本市では、町内会会員の高齢化や運営の担い手不足が著しく、維持・運営が難しい状況。 ○民生委員・児童委員についても高齢化や担い手不足が深刻な課題。 ○住民が自主的に運営しているふれあいサロンでは、高齢者などからの困りごとに関する相談の対応や行政手続きも可能。 ○平成30年度、生活支援コーディネーターを配置。生活支援サポーターの養成などを通じて、高齢者が抱える困りごとに対する支援を実施。 ○老人福祉会館の運営を指定管理し、高齢者の健康増進や明るい生活を営む場として運営中。</p>	第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画	<p>○健康と生きがいづくり ○安心して暮らせるまちづくり ○地域包括ケアシステムの推進</p>	<p>○ふれあいサロンの継続 ○ふれあいサロンの活用による「高齢者の居場所づくり」の推進 ○生活支援コーディネーターや生活支援サポーターによる地域・個別支援の推進 ○地域互助により、高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく暮らしていけるよう、介護予防事業や生活支援サポーターなどの活動を推進</p>	-	-	-	<p>○老人福祉会館の運営 ○ふれあいサロンの実施 ○生活支援サポーター養成講座の開催 ○介護予防事業(ゆるり講座など)の実施 ○つながろう通信の発行</p>	<p>○老人福祉会館設備の老朽化 ○高齢者を支える担い手の確保 ○3密の防止</p>	<p>○有償ボランティア制度化に向けた情報収集 ○フレイル(健康な状態から要介護になるまでの中間的な段階)予防事業の実施(体力測定と運動・介護予防講話)</p>	<p>○自助(自立した日常生活の継続)の推進 ○互助(地域の中での助け合い・支え合い、インフォーマルな相互扶助など)の推進</p>
戦略1: 誰もが安心して暮らせる環境づくり	⑨ 空き住戸となっている市営住宅を活用したグループホーム事業の推進	建設課	<p>・市営住宅の恒常的な空き家について目的外利用を促進し、障がい者の生活支援や団地内での就労支援活動を行うことで、相互協力による障がい者自立支援住宅として整備する(総合戦略策定時) ・障がい者が地域において自立した日常生活・社会生活を営むことができるようにするため、グループホーム(以下、GHという。)など地域における住まいの場の確保が重要であることから、厚生労働省及び国土交通省両省の施策の取り組み強化について通知されている。 ・また、公営住宅のGH等の事業活用も、公営住宅法の目的外使用(法第45条第1項)により、地域の実情を踏まえた積極的な活用が期待されているところである。 ・当市の市営住宅については、将来の適正な管理戸数への集約と安全・安心な住環境づくりのため、既存ストック住宅等の将来的な活用方針を定め、令和2年度末に市営住宅等長寿命化計画を見直した。</p>	夕張市まちづくりマスタープラン、夕張市営住宅等長寿命化計画、第2次夕張市障がい者計画、第5期夕張市障がい福祉計画	<p>・障がい者の地域生活への移行推進に向けた課題解決のため、住まいの場を確保するにあたり既存市営住宅のGH等への活用を図る。</p>	<p>・市営住宅等長寿命化計画では、約6割の住宅が将来活用が見込めない住宅と位置づけられているため、残り4割の住宅から、入居状況や地域、GHとしての活用条件等を鑑み、活用が可能な住戸選定に取り組む。 ・障がい者支援サービスに関する主管課である生活福祉課(生活福祉係)と事業者のニーズや相談内容など情報共有を図る。</p>	R2~R6 新規利用者5名	2名	40%	<p>・平成31年、令和3年度に各1戸(計2戸)をGH(サテライト型)として活用 ・活用促進及び手続の迅速化のため「社会福祉法人等による夕張市営住宅の使用等に関する取扱要綱」及び「活用可能な住宅の選定基準」を制定【平成30年11月1日施行】</p>	<p>・市内に本事業を実施できる事業者が限られ、サテライト型GHの設置数に制限があることから、事業の推進は限定的にならざるを得ない。</p>	<p>・第5期夕張市障がい福祉計画におけるGH利用者見込を踏まえ、市内事業者のニーズを把握・GH(サテライト型)についての活用を望む相談があった場合は、事業者・関係課等と連携し、戦略及び目的達成を推進していく。</p>	<p>○現在、市内にサテライト型グループホームを運営できる事業者が2法人のみであり、その設置数に上限があることから、生活福祉課から実施事業者の拡大に向けた取り組み等を検討する。</p>

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略2:新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略2: 新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出	① 地域資源を活用した交流人口の拡大	地域振興課	本市には、豊かな自然、夕張メロンをはじめとする特産品、映画祭などの各種イベント、スキー場などの観光施設、多目的な運動施設さらには産業遺産や文化施設など、魅力ある地域資源が存在する。また、本市は札幌や新千歳空港から約1時間強の距離であり、新千歳空港から富良野・旭川へ抜ける観光ルートの中に位置しているという地理的優位性も有している。こうした特徴を最大限に活かし、少しでも多くの人々に本市へ足を運んでもらえるよう、地域資源の魅力の洗い出しを行うとともに、観光やイベント等の情報をできる限り一元化するなど、伝わりやすさを意識した積極的な情報発信に努めることとし、交流人口の拡大を図っていく。加えて、夕張岳やシューバロ湖、本格的スキーリゾートなどを利用した魅力的な体験型観光を推進し、リピーター客の増加を図ることにより、交流人口の拡大を目指す。	-	・観光やイベント等の情報をできる限り一元化するなど、伝わりやすさを意識した積極的な情報発信 ・地域資源を活用した魅力的な体験型観光の推進による交流人口の拡大	・令和3年度9月より地域おこし協力隊を登用し、観光やイベント等の情報を積極的に発信 ・一般社団法人夕張市観光プロモーションによるイベントの実施、市内観光マップの作成等	-	-	-	・観光HPの更新 ・観光案内看板の魅力化整備等 ・市内観光マップの作成(更新) ・広域観光マップの作成(更新) ・観光施設である「幸福の黄色いハンカチ思い出ひろば」感染拡大防止及び魅力化整備	・市民、観光団体、企業、行政等の連携による観光の一元化 ・リピーター客の増加を図るため、イベント・企画展、映画祭等の連携など継続した取組 ・地域資源の有効活用	・SNS等における観光情報の発信 ・市内観光マップの作成(更新) ・観光案内看板の更新、集約 ・シューバロ湖の湖面利用ルール制定 ・市内イベント等の企画、再開	誘客宣伝・PR事業、情報発信、観光ガイド・案内人養成、イベント等の検討
戦略2: 新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出	② 産業遺産ツーリズム拠点としての「石炭博物館」「清水沢エコミュージアムプロジェクト」	教育課	夕張市石炭博物館は、S55年の開館以来長く観光施設として運営されてきたが、石炭産業の歴史を伝承していく使命を踏まえ、博物館本来の機能を充実させるためにH25年に社会教育施設としてその位置付けを変更し、その後、一般参加による学習会の開催や「石炭博物館友の会」の発足(H28)による館内展示等の改善案検討、文化庁の補助金を活用したソフト事業の展開など、市民協働の博物館づくりを進めてきた。 一方、大きな課題であった施設の老朽化に対応すべく、財政再生計画の抜本的な見直しを図る中で、H28年度に模擬坑道、H29年度には博物館本館の大規模改修をそれぞれ実施し、H30年4月28日指定管理者制度を活用してリニューアル・オープンした。しかし、H31年4月、模擬坑道内において火災が発生し、現在(当該坑道は)閉鎖中となっている。 かつて、本市の発展はもとより、我が国の高度成長を支えた石炭産業の歴史を「後世に伝える」大きな役割を有する石炭博物館は、産業遺産ツーリズムの中核であるとともに、「炭鉄港」が日本遺産に登録されたことを踏まえ、その拠点としての役割を今後も担っていく存在である。 こうしたことから、模擬坑道の早期復旧と再開をはじめ、博物館本館展示のさらなる充実化と本館周辺の環境整備について検討していく必要がある。	-	・一人一人が「夕張市民＝自分のまちのこと」として運営に参加することができるような博物館を創造する。 ・夕張市の歴史・石炭産業の歴史を記録・保存し後世に伝えるとともに、教育分野並びに観光分野における「地域資源」として幅広く活用を図っていく。 ・市内外の団体等との連携により、関係人口、交流人口の創出・増加を目指す。	・より効率的、効果的な運営を図るため、H30年度より指定管理者制度を活用して指定管理者を選定(特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団)し管理・運営にあっている。「炭鉄港」をはじめとして、本施設を核としたより広範な活動が展開されるようになった。 ・空知の旧産炭地域全体の情報収集と発信。 ・指定管理者が持つ様々なノウハウを活かした事業展開と市教育委員会との連携、協働が緊密になっている。	-	R1及びR2:各1.3万人、R3:1.0万人	-	模擬坑道及び博物館本館の大規模改修を実施するとともに、施設内の展示内容についてもリニューアルを行った。NPO法人による指定管理を導入後は、効率的な運営を実施するほか、市民からのニーズ等に対応した活動など、市民との協働で充実化させていくための基盤を形成した。その成果としてリニューアル後の入館者数は大きく増加したが、H31の模擬坑道火災後は減少が著しく、年間1万人弱となっている。 本施設の今後の保存と活用に関して指標となる「文化財保存活用計画」を策定した。	・博物館の運営、管理に関わるとともに施設の活用等を企画することができる人材の不足。 ・炭鉱経験者及び有識者の高齢化。 ・模擬坑道の早期復旧と再開及び施設周辺の環境美化(廃墟感の払拭)。	・引き続き、炭鉄港(日本登録遺産)の拠点施設として、道内外の旧産炭地域や関係者との連携強化を図る。 ・多様なイベント等、従来の枠にとらわれない事業の展開。 ・施設の安全・安心を最優先した模擬坑道の復旧及び再開(施設復旧工事等の着手)。	・R3までの活動を継承するとともに、指定管理者とのさらなる連携の下、事業の充実、推進強化を図る。 ・模擬坑道の復旧について、スピード感を持って進める。
戦略2: 新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出	③ スポーツ交流等の促進	教育課	本市は、天然芝のサッカー場や野球場を核とする「運動公園」、「文化スポーツセンター」、「テニスコート」など、豊富な体育施設を保有しており、民間による宿泊施設も充実していることから、毎年道内外からの合宿・大会誘致などに利用、賑わいを見せていた。 しかし、近年、コロナ禍の影響によるスポーツ大会や合宿の中止などにより来訪客の減少が続いており、企業の倒産による宿泊施設の閉鎖も相まって厳しい状況に直面している。	-	・体育施設を効率的に管理しながら、地域再生の一翼を担う「スポーツ交流施策」をより効果的に推進していくにあたり、H29年度より指定管理者制度を活用。「NPO夕張市体育協会(以下「NPO」と記す。)」を指定管理者に選定し、この間、管理運営にあっている。 ・コロナ禍の中、厳しい環境下にはあるが、スポーツ大会や合宿のコーディネートを含め、地域の活性化につながる事業展開を視野に体制の確保と強化を図る。	H29年度にNPO支援担当の地域おこし協力隊員を中心とする「(仮称)ゆうばり総合型スポーツクラブ設立準備委員会」を組織し準備を進め、H31年4月に総合型地域スポーツクラブ「ユルっとゆうばりスポーツクラブ」が設立された。各種運動教室を開設し、市民がスポーツに接する機会を増やすとともに、クラブが自立していくために活用しきれていないフィールド(トレラン、サイクリング、ノルディックウォーキングなど)を開発するためモニター事業を展開するなど、市内外からの利用者増の促進に取り組む。また、スポーツ大会や合宿の誘致に伴い、飲食店の利用等、地域経済の活性化に資するよう「コーディネーター」を採用、配置するなどの取組も強化していく。	新規受入団体15団体	下記(R3までの進捗・事業効果)のとおり	・H31年4月より総合型地域スポーツクラブ「ユルっとゆうばりスポーツクラブ」開設 ・同上クラブによる運動教室、卓球、Nウォーキング、ランニング、ボクシングなど継続実施 ・令和元年度モニター事業実績:新規団体12,438名宿泊 ※令和2年度は宿泊受入先の営業停止及び新型コロナウイルス感染拡大に伴い合宿誘致が困難であったため実績なし。 ・令和3年度実績:新規団体2、23名宿泊	・クラブの自立が課題(会費(財政)、人材確保など) ・宿泊受入先の確保(現在も市内ホテルは閉鎖中) ・新型コロナウイルス感染による影響(活動自粛による合宿の中止等)	・市が進める人材バンクと連携し、クラブのさらなる活動活性化に取り組む。 ・宿泊施設の確保。 ・文科系団体(吹奏楽部、美術部など)の合宿も受入対象とする。	・山岳、トレラン、ロードバイク、マウンテンバイク、駅伝など、活用しきれていない分野の開発 ・老朽化が著しい施設の改修検討	

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略2:新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略2: 新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出	④ 道の駅の魅力向上	地域振興課	道の駅は、地域の創意工夫により道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設であり、「道の駅夕張メロード」は、夕張市が施設整備を行う単独型で国道274号沿いのJA夕張市メロード店内に平成23年6月に整備された。管理運営は、道の駅夕張メロード運営協議会へ委託している状況。 現在、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震によりトイレが損傷し、使用不可能となり撤去されたため、代替としてJR新夕張駅に併設しているトイレを24時間トイレとして借用している状況であり、道の駅の運営にあたっては、施設に付随するトイレの復旧が喫緊の課題となっている。	-	国道274号線の道の駅夕張メロードの前後区間では、起点側33kmに「マオイの丘公園」、終点側の51kmに「樹海ロード日高」が整備されている状況であるが、2つの道の駅の間隔は84kmあることを踏まえると、当市道の駅に駐車場、トイレ等の休憩施設の整備が必要と考えられる。	道の駅は、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能を併せ持つ多機能な休憩施設であり、防災拠点化も図られるなど、その重要性はますます高まっている。本市の道の駅「夕張メロード」は、JR新夕張駅に隣接し、道東自動車夕張インターチェンジにも近いことから、南の玄関口として、その果たす役割は非常に大きいものと考えられる。このことから、道の駅としての機能の維持・強化を図りながら道の駅の魅力を高めるとともに、夕張の魅力を伝える拠点として情報発信の強化に努めていく。	R6利用者数16万人/年	R3利用者数11.8万人	74%	・感染症対策を念頭に置いた特産品売場、休憩場所、情報発信展示の整備 ・観光案内窓口の設置 ・市内周遊を促進させるデジタルサイネージによる展示、情報提供、JAや関係事業者との連携による特産品販売等。	課題解決にあたり、施設投資は極端に制限されている状況であるが、ソフト面を中心に道の駅の魅力化を図りながらも、ハード面においては、地方創生臨時交付金を活用し、関係機関の協力を仰ぎながら取り組んでいきたい意向である。	防災拠点化の推進(避難所指定)、特産品開発等の実施により、道の駅としての機能を強化することを検討する。また、国道274号線沿いの施設であることから、現在の「単独型」の運営を見直すことや、平成30年9月の震災により破損、除却した24時間トイレの復旧も併せて検討する。	ソフト面を中心に道の駅の魅力化を図っていくこととなるが、ハード面についても、関係機関の協力を仰ぎながら、必要に応じ段階的に整備していくことを検討する。
戦略2: 新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出	⑤ 北海道及び他自治体との広域連携	地域振興課	市内には石炭産業に関する歴史遺産や関連した施設が数多く残っている。 また、夕張市は空知総合振興局管内においては最も知名度も高く、北海道が誇る夕張メロンをはじめとした特産品が充実しており、一方で空知総合振興局管内の各自治体には「食」や「ワイン」等の魅力的なコンテンツが存在している。 これらのコンテンツを集積・発信する拠点として、北海道の協力を得つつ管内市町村と連携していく。	-	・市内に残る石炭産業に関する歴史やコンテンツと北海道全体の開拓・発展という文脈とのつながりを明らかにし、魅力向上を図る。 ・管内最大の宿泊施設の強みを活かし、管内の特産物を夕張に集積させ、夕張から発信していく。 ・食やサービスを含めた新たな観光資源の発掘や観光ルートの検討を深める。 ・空知地域活性化に向けた取り組み【北海道空知地方創生協議会との連携】	・空知総合振興局及び各市町と連携した空知管内のコンテンツ紹介及び知名度向上に向けた取組 ・空知総合振興局及び各市町と連携した炭鉱関連遺産、鉄道、港、製鉄(炭鉄港)の連携による日本遺産登録を目指した取組 ・市内宿泊施設及び市内観光団体等と拠点整備に向けての検討 ・管内周遊の観光ルートの作成検討 ・そらちグルメファンドなどへの協力 ・イベント、物産展への出店、PR	連携イベント回数 5回/年	5回	100%	・空知総合振興局及び各市町から成る炭鉄港推進協議会にて、炭鉄港の日本遺産登録及び登録後の普及啓発事業に取り組んだ。 ・そらちグルメファンド開催に協力し、市内交流人口の増加及び空知地域の魅力向上に努めた。 ・南空知9市町で実施する広域連携加速化事業における『南空知圏域の形成に関する協定書』(R2年度～R6年度)の締結。	・日本遺産の普及に向けては、地域文化の伝承(語りべ)や学習的な機能が求められることから、道や他自治体との連携を図り、そうした人材の育成、受入れ体制の整備が必要となる。 ・コロナ禍の影響もあり市内のホテルが閉鎖。ホテルの再開など強みとしていた宿泊施設の確保は大きな課題。	・振興局と連携した、イベント等での観光PR ・炭鉄港の普及に向けた空知総合振興局及び各市町との連携の継続及び人材育成の強化 ・広域連携加速化事業の事業実施	・空知総合振興局及び各市町との連携を継続し、炭鉄港の普及及びガイド等の人材育成に努める。 ・広域連携加速化事業において関係市町と協力することで、南空知圏域に必要な生活機能の確保及び地域の活性化を図り、安心して暮らせる圏域を形成する。
戦略2: 新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出	⑥ 関係人口の創出	地域振興課	過疎化が進展し、地域の活力の衰退が著しい本市においては、地域に愛情を持ち、一人ひとりが役割を考え、活動する地域の人材「活動人口」を増やし、育成していくことが重要であると考えている。 「活動人口」の育成には、夕張市のまちづくりに多様な関わりを持つ市外の人材「関係人口」の視点や知恵の流入が必要である。 平成30年度は、総務省関係人口創出事業のモデル事業に採択され、関係人口の創出に向けた取組を実施。現在まで、活動人口と関係人口を繋ぐプラットフォームづくりまでは至っていない。	-	「関係人口」との交流効果が市内に還流する仕組みを担い、将来的な夕張版DMO設立を見据えた上で、将来的な「関係人口」と「活動人口」を繋ぐプラットフォームを構築する。 新たなチャレンジの情報発信機能も強化する。	・平成29年度より、市民の自主的な研修に対する補助制度(地域人材育成事業)を施行し、活動人口となりうる個人・団体のスキルアップを推進。 ・平成30年度は、総務省関係人口創出事業のモデル事業に採択され、関係人口となる「夕張Likers!」の創出に向けた取組を実施。 ・令和2年度は、市内まちあるき等のイベントに参加いただいた「夕張Likers!」に名刺を配布したほか、夕張Likers!登録者向けに「Likers通信」を2回発行。 ・令和3年度は、市内まちあるき等のイベントに参加いただいた「夕張Likers!」に名刺を配布したほか、夕張Likers!登録者向けに「Likers通信」を1回発行。 また、市内観光施設2箇所において名刺の提示による入場料等の割引を実施。	市内での交流イベント 年1回、都市部での交流イベント 年1回	市内での交流イベント 0回、都市部での交流イベント 1回	50%	・「夕張Likers!」登録者数 約570名 ・「夕張Likers!」名刺発行者数 4名 ・「Likers通信」発行数 1回	・関係人口の概念の普及を継続して行っていかなければ、活動も継続しない ・コロナ禍の影響により、市内や都市部での交流イベントへの参加や実施ができていない	・「夕張Likers!」公式Twitter及びInstagramの開設 ・夕張と「関係人口」をつなぐため、SNSで継続的な発信 ・市内まちあるき等のイベントに参加いただいた「夕張Likers!」に名刺を配布し、継続的な関わりにつなげる ・名刺の提示による市内観光施設入場料等の割引、市内店舗等で利用できる特典の創出 ・ふるさと納税との連携	継続した取組を行う予定

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略2:新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略2: 新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出	⑦ つながりを築くふるさと納税の促進	地域振興課	ふるさと納税は、財政再建中の夕張市にとって、地域再生に向けた取り組みのための大変貴重な財源となっているとともに、夕張メロンをはじめとする各種特産品や夕張の取組を知ってもらうための重要なPRツールにもなっている。 現在、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」のほか令和2年度からは「楽天市場」においても、ふるさと納税による寄附を受け付けている。	-	継続的なふるさと納税寄附金の確保及び新規寄附者の獲得を目指す。	寄附者の方々に対して寄附金の活用状況を報告する等、夕張とのつながりを実感してもらえる取り組みを引き続き行っていくとともに、情報発信の一層の強化や、「関係人口」といった市の施策との連携、近隣自治体と連携した返礼品の企画など、特色ある取組を推進していく。 また、企業版ふるさと納税についても、企業の皆様から少しでも夕張を応援したいと思ってもらえる特色ある取組を検討していく。	市内での交流イベント 年1回、都市部での交流イベント 年1回	市内での交流イベント 0回、都市部での交流イベント 1回	50%	平成29年度より、前年度寄附者全員に報告書を送付。 令和元年度より、近隣自治体との連携による返礼品開発を実施。 令和2年度より、楽天株式会社とふるさと納税システム利用契約を行い、楽天市場での受付を開始。 また、夕張メロンとメロン熊グッズのセットによる返礼品を新たに追加した。 令和3年度より、夕張BASEを通じた株式会社トラストバンク及び市内事業者との連携による新規返礼品等の開発、既存返礼品の磨き上げを実施。 また、「夕張市ふるさと返礼品開発支援補助金」を創設し、5事業者に計1,870千円を補助し、10品が返礼品として受付を開始した。	他自治体と比較して、返礼品の種類(数)が少ない 寄附受入額の約8割が夕張メロンによるものであり、夕張メロン以外の返礼品にも注力する必要がある 「関係人口」との効果的な連携 コロナ禍の影響により、市内や都市部での交流イベントへの参加や実施ができていない	夕張BASEを通じた市内事業者との連携による新規返礼品等の開発、既存返礼品の磨き上げ SNSを活用した「関係人口」との連携 企業版ふるさと納税の特色ある取組の検討 夕張市ふるさと返礼品開発支援補助金による返礼品開発の促進(8月現在3事業者に計860千円を補助) 市内工場で生産する商品や夕張メロンを使用した市外商品の返礼品化	継続した取組を行う予定

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり	① 農業者、農協、市の連携による産地力強化	地域振興課	高齢化や後継者不足などにより、農家戸数・農家人口が減少傾向にあることから、農業生産力の維持向上と活力のある農村形成が課題。本市におけるメロンは農業生産額の9割程度を占め、特に夕張メロンは抜群の知名度により「夕張の代名詞」となっており、ふるさと納税の返礼品としても圧倒的な人気を誇るなど、財政再生中の本市の貴重な財源確保にも多大な貢献をもたらす存在。 一方で、作付面積や農家戸数などが直近10年で約25%減少するなど生産体制が急激に縮小しており、産地存続に向けた対策が急務であるため、夕張メロンの安定的かつ永続的な生産体制の構築に向けた支援が必要。	第13次夕張市農業振興計画(令和2年度～令和4年度)	夕張メロンなどの担い手の確保・育成や新規販路の開拓、高付加価値化などの諸課題を検討し、持続的で安定した力強い調和のとれた産地力強化を目指す。	○施策の取組 令和3年度は農業振興対策連携事業により、ブランド力向上や生産基盤の強化、雇用労働力確保等を図る以下の取組を実施。 ・夕張メロンポスター作製:ポスター作製に対する補助(10,000枚) ・夕張メロン生産安定対策支援:生産基盤整備に対する補助(ハウス新設6戸、ハウス更新3戸、客土1戸、自動換気機器2戸) ・令和3年被災農業者向け夕張メロン生産安定対策支援:被災農業者の生産基盤整備に対する補助(ハウス更新8戸) ・花粉交配支援対策:授粉用ミツバチ調達経費に対する補助(100戸、3,336群) ・農地・農村活性化対策:防災・減災に向けた農業用排水路の改修等の取組に対する補助(2箇所) ・夕張メロン雇用労働力確保緊急対策:雇用労働力となる農業サポーターの募集活動に対する補助 ・遊休地有効利用対策事業:遊休地におけるクローバー栽培経費に対する補助(1戸) ○推進体制 農業者・農協・市等で構成する夕張市農業振興協議会で課題の洗い出しや取組の方向性を検討。	R6農業生産額(メロン)25億円	R3農業生産額(メロン)22.7億円	91%	・数値目標のR6農業生産額(メロン)25億円に対して、令和3年度は22.7億円であった。	・効率的かつ安定的な農業経営及びこれを目指して経営改善に取り組む農業経営の育成・確保	継続予定(個別事業等について適宜必要な見直しを行う。)	継続予定(個別事業等について適宜必要な見直しを行う。)
戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり	② 日本一の薬木生産地に向けた基盤整備	地域振興課 農林係	○平成27年度(2015)から、漢方薬としての利用が見込まれる薬木(キハダ・ホオノキ)を新たな地域産業資源として位置づけ、カラマツ伐採跡地に植栽する事業を開始している。 ○令和元年度末の実績で、ホオノキの植栽規模は、6.86ha(4,000本)と日本一の規模となっている。また、キハダは、12.46ha(11,000本)で全国二位となっている。 ○第1期総合戦略に引き続き、薬木の植栽面積を増やし、日本一の薬木生産地を目指す。	夕張市森林整備計画、夕張市森林経営計画	○生薬原料の安定的な供給体制を構築し、雇用機会を生み出すために必要な薬木の植栽規模は、約28ha(28,000本)と見込んでいる。日本一の薬木生産地を目指して基盤整備を完了させ、安定供給体制を構築するとともに、薬木生産地としての夕張ブランドの確立を図り、次世代の雇用・就労機会を創出する。 ○令和2年(2020)から令和6年(2024)までの5年間で薬木植栽面積を28haに拡大する。	○薬木以外にも新たな地域産業資源となりうる森林資源の発掘に努める。 ○企業等に対して事業のPRを行い、企業ふるさと納税による寄附を募る。 ○節目におけるPR活動の検討	薬木植栽面積 28ha	19.99ha	71%	○平成28年度に国立研究開発法人森林整備・研究機構林木育種センター北海道育種場と共同試験に関する覚書を締結している。令和2年度に覚書に基づき、共同試験地を設定し、道内各所、東北、中国、九州地方等由来のキハダ苗木を1,000本(0.67ha)植栽し、産地別成長特性試験を開始した。 ○平成30年9月5日に観測史上最大瞬間風速を記録した台風により、シカ被害対策の植生保護管が破損したことから、資材を見直すため、植生保護資材等の比較検討試験を開始した。 ○伝統工芸の保存活動を行う団体から、日本刀の鞘や研磨炭の原料として、将来、生薬原料としての樹皮を剥皮した後の材(ホオノキ)の引合いを受けている。	○台風や豪雪等による気象害対策。 ○事業費の確保。企業版ふるさと納税による事業費確保を目指しているが、事業費の全額を確保するには至らず、森林環境譲与税積立基金を取り崩して実施している。	○薬木植栽地における作業を障がい者就労支援施設に依頼し、林福連携を進める。	○薬木以外の新たな地域産業資源として見込める樹木を見い出す。

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり	③ 森林資源活用型の地域人材育成	地域振興課 農林係	○第1期総合戦略「地域産業資源創出事業」により、林業事業体における雇用機会の創出はなされたが、高齢者や主婦といった方の「働く場づくり」には至っていない。 ○夕張市の森林面積は約6.9万ha、市域面積の9割が森林であり、夕張市としても約3千haの森林を所有している。森林が豊富にあるという夕張市の特性を生かし、森林資源と女性、高齢者や障がい者といった地域人材を融合することにより、森林資源の新たな用途を開発し、各人の都合に応じた働き方ができるように森林資源活用型の地域人材育成事業を実施する。	夕張市森林整備計画、夕張市森林経営計画	○主婦、高齢者、季節雇用者、一時帰休者等、多様な主体による新たな稼ぎ方の創出、活躍の場の創出を目的とし、森林由来の自然素材を材料として、クラフト作品等を製作・販売できる人材を育成する。 ○障害者就労支援施設に市内の森林資源を活用した新たな地域産品(木製玩具等)の制作を依頼し、新たな活躍の場を創出する。 ○多様な担い手による森林資源の適正利用によって、地域経済の活性化を図りながら、持続可能でレジリエンスの高い森林へと導き、自然災害に強いまちづくりを進める。	○企業版ふるさと納税による寄附を活用して事業を実施する。 ○令和2年度は、事業費を確保できなかったことから、令和3年度から事業を開始する。	○地域材を活用する製品・アクティビティの開発数:3個 ○地域材を活用する副業活動開始人数:5名	○地域材を活用する製品・アクティビティの開発数:0個 ○地域材を活用する副業活動開始人数:0名	0%	○夕張の森林資源を活用するワークショップを5回開催。 ○ワークショップ参加者の中に夕張の木材を活用してクラフト活動を考え始める者が始めている。	○事業費の確保。	○R3の実施した制作手法とは異なる方法でのグリーンウッドワークショップ、また、シラカバ樹皮を用いたかご制作などの木工クラフト系や樹木の葉からのアロマオイルの抽出するワークショップを開催する。 ○地域材を活用する製品を3品開発する。その制作を福祉事業所等に依頼する。	○R3、R4の事業結果を踏まえて、ワークショップの内容等を精査し継続する。 ○R3、R4の参加者の意向を確認のうえ、簡易的な木工工房を整備する。
戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり	④ ズリ山(石炭)を活用した稼働防災事業の推進	地域振興課	夕張市内に66か所存在するズリ山のうち、最大規模の高松ズリ山において、昨今の気象変動などの影響により、山の一部が崩壊し堆積したズリが山の近傍の河川をせき止め、それが決壊し下流域に一気に流れる大災害が発生した(H24~25年)。ズリ山の上部にはズリの堆積によって形成された池があることから、更なる災害のリスクを有しており、ズリ山の安定化は急務となっていた。一方でその対策に費用を要し大きな問題となっていたもの。	-	活用が見込まれるズリ山から使用可能な石炭と残渣を選別し、採取した石炭を火力発電施設等へ売却することにより、収入を得つつ災害を防止するとともに、新規雇用も創出する。	ズリ山から採取したズリを、ズリ山上部の水を活用した水選炭事業により石炭、砕石に分別し、回収された石炭を製品化し、国内の火力発電所等で必要とする低カロリー(3,000kcal)の調整炭として販売する。同時に、ズリ山の整形による安定化など、災害リスクの低減を図るほか、緑化等の環境対策を実施する。	-	-	-	平成27年度から操業開始。当初はズリに予想以上の粘土質が付着し、洗浄効率が悪く比重選別が困難な状態だったが、これらを改善するために生産量原炭前処理設備を増設したことにより、水洗別プラントの処理能力が向上し、出炭量は増加した。 これまで、新たな雇用者数8名、災害リスクの軽減、市の歳入増(採取料251万円/年平均、法人事業税等)などの成果を得られているところ。	・安定的な事業化に向けた支援の継続及び地産地消(石炭)の研究(産学官連携) ・事業における土砂の安定処理	・石炭生産量の増産に向けた稼働時間の延長。 ・事業安定化に向けた協議。 ・事業により発生するものが土砂として処理が可能であることが確認されたため、今後は計画的に埋め戻しに活用していく。 ・残った碎石などは暗渠疎水材(空知総合振興局南部耕地出張所)、ごみ処分場覆土(富野埋立処分場)、その他路盤の凍上抑制層等としての活用を検討。	・事業安定化に向けた協議 ・契約期間が一旦満了を迎える。令和6年度末以降の事業計画について協議が必要。
戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり	⑤ 誰もが活躍できる働く場づくり	地域振興課	市民の安心した生活をサポートするうえで雇用対策は重要であることから、性別・年齢にかかわらず、あらゆる人が仕事を通じ活躍できる地域社会を目指し、その就労の場の創出・確保に努めているが、現状、ニーズに即した雇用環境は少ない状況である。	創業支援等事業計画	ハローワークや商工会議所等と連携して人材マッチング支援を検討していくほか、就職や業務に必要な各種資格の取得支援制度を継続することで、就労や能力向上による職務拡大に繋がる支援を行う。また、市内で起業する新規創業者や事業を拡大する事業者への助成制度も継続し、新規雇用の創出を図るとともに、産業振興や定住促進による地域活性化を目指す。	雇用創出促進のため、資格取得支援事業補助金及び創業等支援補助金を有効活用及び事業周知。	R2~R6までの資格取得100件、新規創業5件	R3は資格取得22件、新規創業1件	31%	【R3】 ○資格取得22件 就職や業務に必要な各種資格の取得支援により、就労や能力向上に繋がっている。 ○新規創業1件、事業拡大6件 制度開始当初の想定よりも多くの申請があり、制度の浸透が図られている。	・就労の場の創出・確保 ・新型コロナウイルス感染症の影響により事業活動の縮小を余儀なくされた事業者における就労環境整備や人材確保対策など、労働者の雇用維持	資格取得支援事業補助金及び創業等支援補助金の募集・周知	・地方創生臨時交付金を活用した事業活動の縮小を余儀なくされた事業者が、就労環境整備や人材確保対策のため、「雇用対策支援補助金」を新設。 ・担当課としては、別添資料(経費等)に記載事業の継続を検討。(財源未定) ・「奨学金返還支援事業」を新設。(特別交付税措置あり)

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略3: 地域資源を活用した働く場づくり	⑥ 障がい者の就労の場の確保	生活福祉課(地域振興課)	<p>当市では、市民の約11%に当たる方に何らかの障がいがあり、全国平均の1.5倍近い割合となっている(身体障害、知的障害、精神障害に係る障害者手帳の所持者数により算出)(令和2年版障害者白書による全国7.6%)。</p> <p>多様な個性を持つ方々が、地域で安心して自立した生活ができるまちづくりのためには、障がいのある人にも、本人の希望や障がい特性に応じた就労の場が確保されることが重要である。</p> <p>しかしながら、急速な人口減少等に伴う地域経済の低迷などにより、十分な就労の場の確保がなされていない状況である。</p> <p>障がいのある方の就労先の開拓は、市内にある就労移行支援事業所の役割の一つでもあるが、市としても、関係機関との連携などによって推進していく必要がある。</p>	第3次夕張市障がい者計画、第6次夕張市障がい福祉計画	<ul style="list-style-type: none"> 市内の企業などに対し、障がいのある方に係る求人掘り起こしを行う。 市の事業の一部を市内の障がい福祉サービス事業所に発注する。 市内の企業などの動きをとらえて、障がい福祉サービス事業所への発注可能な業務等があれば仲介や調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 夕張市障害者自立支援協議会において、障がい福祉事業所や、ハローワーク等の機関と連携し、上記の取組の進め方等について検討し実行する。 「夕張市障がい者優先調達方針」に基づき、庁内各部署で障がい福祉サービス事業所への業務発注を検討する。 	R2~6 就職件数1556件(16+13+26+1)			<ul style="list-style-type: none"> H29年度にハローワーク夕張出張所と連携し、市内の企業等を訪問(10事業所)。各企業等の状況を聞き取るとともに、障がい者雇用に係る国の助成制度について紹介。 H30年度からは、夕張市障害者自立支援協議会を通じて、引き続き障がい者雇用の理解促進を図るとともに、ハローワークから障がい者の登録数等について情報提供を受け、対象者へトライアル雇用の活用を助言するなどの取組を実施。また、薬草の選別業務について市内の企業と障害福祉サービス事業所を仲介し、作業が軌道に乗るまでの調整を実施。 薬木植栽地の管理委託(地域振興課)に向けて小型無人機の操作講習を実施。(H30) 薬木植栽地管理業務(地域振興課)を障害福祉サービス事業所に委託。(優先調達等)(R1~) 治山・林道施設維持管理業務(地域振興課)を障害福祉サービス事業所に委託。(優先調達等)(R1~) コロナ対策のマスク製作(保健福祉課)を障害福祉サービス事業所に委託。(優先調達)(R2) <p>R2 ハローワーク採用 16名(登録56名中)・トライアル雇用 1名、福祉施設での就労 13名 R3 ハローワーク採用 26名(登録83名中)・トライアル雇用 1名、福祉施設での就労 11名(新規1名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各企業等での雇用は、それぞれの経営状況等に左右されるため、市でできるのは依頼や情報提供にとどまること。 	<ul style="list-style-type: none"> 夕張市障害者自立支援協議会を通じて、引き続き障がい者雇用の理解促進を図るとともに、ハローワークから障がい者の登録数等について情報提供を受け、対象者へトライアル雇用の活用を助言するなどの取組を行っていく。 市地域振興課の事業「薬木植栽地管理業務」を、市内の障害福祉サービス事業所に依頼。(優先調達) 同課の事業「治山施設維持管理業務」を障害福祉サービス事業所に依頼。(優先調達) 薬木植栽地管理業務を障害福祉サービス事業所に委託。(優先調達) 	<ul style="list-style-type: none"> 夕張市障害者自立支援協議会を通じて、引き続き障がい者雇用の理解促進を図るとともに、ハローワークから障がい者の登録数等について情報提供を受け、対象者へトライアル雇用の活用を助言するなどの取組を行っていく。 「夕張市障がい者優先調達方針」に基づき、庁内各部署で障がい福祉サービス事業所への業務発注を検討する。

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略4:夕張の未来を創るプロジェクト

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略4:夕張の未来を創るプロジェクト	① 小中高連携による郷土愛教育の推進	教育課	近年、若年層の「地元離れ」が進み、本市でも高校卒業後に地元を離れるケースが目立っており、例外ではないのが現状である。豊かな自然と炭鉱の歴史により築かれた本市で育つ子どもたちが、ふるさと夕張に誇りを持ち、豊かな人間性および健やかな心身を育みながら成長することができるよう、小学校から高校までの各段階における教育活動において、それぞれが連携しながら郷土愛に関する教育活動を実施・推進するべく、各事業に取り組むこととした。 また、本市は「グローバル人材育成」を核として、将来の自立に向けた「キャリア教育」の推進を図りながら、夕張市教育大綱に基づいた新たな教育環境の魅力化プロジェクト(生まれて(0歳)から高校卒業(18歳)まで)をスタートしている。	-	・郷土の魅力を様々な観点から学び、成長した子どもたちが、将来、ふるさと夕張に住み活躍し、次の世代の子どもたちに、さらなる郷土愛を伝えることができる人材の育成を目標に取り組む。 ・市教委は、子どもたちが「確かな学力」を身につけることを目標に、既に小・中学生を対象とする「漢字検定」や「英語検定」に係る受講補助、高校生には様々な資格取得のための支援を行っており、さらにはマンツーマンオンライン英会話事業を小中高一貫で実施するなど、将来の豊かなキャリア形成に向けた取り組みを進めている。	・小・中学校における総合学習について、学習に係る活動費用を補助金として交付している。 ・平成29年度より、スキー学習に係る支援として、小・中学校リフト代利用分の補助を行ったほか、成長著しい中学生に対する「スキー用具レンタル代補助」や、スキー場までの移動に係る「バス利用代金」の負担も行い、保護者負担の軽減を図っている。 ・平成30年度より、夕張市小中高マンツーマンオンライン英会話を実施した。	夕張に愛着を感じる理由のうち、夕張の自然環境・歴史・文化が好きと回答した生徒の割合(アンケート調査) 85%	-	-	・小・中リフト代利用補助については、スキー学習時にかかる費用の全額(小学校各学年2回及び特別支援学級1回分、中学校1・2年生各2回)を補助し、保護者負担を求めることなく実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、小学校は通常どおり、中学校は各1回のみ実施した。 ・また、スキー用具レンタル代の補助については、例年、在籍生徒の約半数がレンタル用具を利用しており、需要の大きさが表れ、保護者負担の軽減に効果をもたらした。 ・平成30年度には、小学校3・4年の副読本のデジタル化を行い、学校ICT環境での使用が可能になった。 ・また、小中学校の全児童生徒にタブレットを導入(高校には市から全生徒分貸与)し無線アクセスポイントを更新、小中高一貫でのオンライン英会話が本格的に実施されている。	・スキー授業におけるリフト代や用具レンタル代など、今後単価の上昇が予想されることから、支出増に係る対策が必要である。 ・今後における市内スキー場の運営が不透明であることから、授業実施にはスキー場の確保等の措置が必要である。 ・英会話を実践する機会をどのように提供するか、学習の成果を発揮する場づくりが課題である。	・令和4年度も小・中学校における総合学習活動費用補助を行い、児童生徒の郷土愛を醸成する学習活動を支援する。 また、スキー学習に係るリフト代補助や用具レンタル代の補助も引き続きのように提供するが、学習の成果を保護者負担の軽減に取り組む。 ・令和4年度から、小中学校の検定料補助として新たに数学検定を計上する。 ・オンライン英会話授業について、令和4年度から委託内容を刷新し、より教科書に準じた内容で実施する。	・特色ある「郷土愛教育」の在り方の検討。 ・今後のスキー授業継続実施のための検討(スキー場確保、移動手段と経費等の検討など)。
戦略4:夕張の未来を創るプロジェクト	② 小中学生の可能性を伸ばすプロジェクトの創出	教育課	子どもは「地域の宝」であり大切な「財産」である。本市は厳しい環境に置かれているが、「地域の自立化」と「持続可能なまちづくり」を進めていく上で、子どもたちの「教育への投資」は将来につながるものであり、極めて重要である。 本市の義務教育推進にあたり、「確かな学力の向上」は大きな課題であり、令和2年度に策定した「ゆとりっこ、学び育成プラン」の確かな実践と発展が欠かせない。また、本年度は郷土愛を育む「小中高一貫ふるさとキャリア教育」にも取り組み、将来のまちづくりを担う人材育成につなげていくことが重要である。	-	小・中学校の学力の実態を踏まえ、「自ら学び、自ら考え、進んで行動する力」の育成に努めることを目標に、基礎的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力・学ぶ意欲の向上について、「小中協働(連携)の強化」及び「教師の授業力向上」を図りながら力強く進める。また、新学習指導要領に基づき「主体的・対話的で深い学び」や「すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」を目指す教育活動を実践する。	・「ゆとりっこ、学び育成プラン」の改定とさらなる実践 ・「小中高一貫ふるさとキャリア教育」の推進 ・基礎学力の向上に向け、小中連携学力向上プロジェクト委員会(通称:ユープロ)の活動充実を通じた小中学校の協働(連携)教科と授業力向上。 ・小中高一貫教育の在り方検討(「義務教育学校」の設置も視野に入れた検討)。	全国学力・学習状況調査の平均正答率を全道平均以上	-	-	・令和2年度、小・中学校に1人1台タブレットパソコンを導入。学習アプリを活用した授業の実施。 ・基礎基本の定着のため、少人数習熟度別授業、TT(チームティーチング)による個に応じた授業を実施。 ・家庭学習強調週間(ファミスタウィーク)等、家庭学習の充実を図った。 ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果、全道平均を上回るのは小学校国語(書くこと)のみ。	・ICTの活用は全国的に試行錯誤の段階にあり、子どもの学力向上につながる効果的な活用方法が課題である。	・ICTを活用した取組(google workspaceでの学習課題共有、CBTチャレンジテスト等の実施)。 ・標準学力検査(NRT)の経年変化(小中9年間)を踏まえた学力分析と改善策の検討。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の継続した実践。 ・定例の校長会議に高校も出席してもらい、学校間連携を強化。	・1人1台端末による学習スタイル(授業での双方向通信、個々の到達度に沿った学習課題の提供)に合わせた環境整備。 ・児童生徒の学力向上に係る対策。
戦略4:夕張の未来を創るプロジェクト	③ 高校魅力化プロジェクトの推進	地域振興課	市内唯一の高校である道立夕張高校の生徒数の減少中、平成27年度に行ったアンケートにより夕張中学校からの進学希望が30%であることが判明し、廃校となった場合のまちの未来に危機感を持った有志の職員で高校魅力化WGを発足。財政再生計画の抜本的見直しで市の主要施策として位置付け、平成28年度から資格取得の半額助成や部活動支援などを予算化。現在は、そのほかマンツーマンオンライン英会話、入学支援補助、海外短期留学、公設塾の運営などの取り組みを行っている。	地域再生計画 グローバル人材育成を核とした夕張の教育環境魅力化プロジェクト～僕らが日本の先山になる～	ふるさと夕張に誇りを持ち感謝の気持ちを持ち、どのような状況にあっても幸福に生きていける力を身につける。多くの方から支援をいただいている夕張にとって、人材の育成及び輩出を通じ社会への恩返しを図る。	・平成28年度 資格取得、進学模試、進路指導、課外活動などの各種補助金制度を創設。 ・平成30年度 入学支援金、海外短期留学、マンツーマンオンライン英会話スタート。公設塾「夕張学舎キセキノ」の開設。 ・令和元年度 外部講師を招いた授業の実施、スキー授業における市職員の派遣 ・令和2年度 一人一台タブレット端末の整備 ・令和3年度 公設塾「夕張学舎キセキノ」の運営を民間委託	夕張高校について良いと思われる点について、「高校魅力化プロジェクト」があるから」と回答した生徒の割合(アンケート調査) R6 60%	-	-	令和元年度・・・入学者数 20名(地元進学率 約60%) 令和2年度・・・入学者数 21名(地元進学率 53.8%) 令和3年度・・・入学者数 16名(地元進学率 45.5%) 令和4年度・・・入学者数 18名(地元進学率 60.0%)	2年連続で入学者が20名を下回り、再編整備の対象となるが留保に向けた手続きを行い、認められる見込み。今後も必要な事業として庁内で意思統一し、市民一丸となって取り組みを推進していく必要がある。	既存の事業を継続しながら、高校と共に明確なビジョン(目的・方向性)を定め、実現に向けた体制(ビジョン会議・対策本部・戦略検討会議)を整備し、具体的な取り組みを推進する。→ビジョン実現に必要なカリキュラムづくりと市外からの受け入れ体制の整備。	再編整備の留保における条件や事業効果を見極めながら、具体的な取り組みを実施。

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略4:夕張の未来を創るプロジェクト

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略4:夕張の未来を創るプロジェクト	④ 未来技術を活用した地域課題への取組とデジタル人材の育成・確保	地域振興課	(1)スクールバスの部活便においてオンライン予約制を導入する。開発に当たっては夕張高校の生徒の参画を得る。 (2)小中高校においてICT機器を活用した教育を実施する。 (3)北海道ガス網との連携によるスマートコミュニティ事業の検討を開始。	-	(1)部活便スクールバスの予約システムを導入し、部活便における乗車数と車両サイズのミスマッチを解消する。 (2)オンラインで海外や外部講師と塾生をつなげるほか、プログラミングをはじめとしたICT教育を実施し、人材育成を図る。 (3)人口減少に対応すべく、テクノロジーやビッグデータを活用した既存産業のイノベーションや技術の可視化、人材育成を図る。	(1)中学校、高校及び各運行事業者にタブレット端末を配置し、日付、便ごとに乗車人数の集計をオンラインで実施。運行事業者は、集計結果をもとに車両サイズや運行の有無を決定する。 (2)小中学校の通常授業でのタブレット端末の活用、小中高連携によるオンライン英会話や高校魅力化プロジェクトにおける海外の大学や外部講師とオンラインで接続したゼミの実施。外部講師を招へいし、プログラミングのゼミを実施。 (3)平成29年度に北海道ガスとの連携協定を締結。	-	-	-	(1)平成29年11月よりシステム運用開始。 (2)小中学校の通常授業で、国のGIGAスクール構想に基づく1人1台タブレット端末の活用開始、オンライン英会話の実施、外部講師による講演、ゼミの遠隔実施 (3)平成29年度に北海道ガスとの連携協定を締結。	(1)予約忘れに対する対応、意識付け (2)関係予算の教育課への一元化	(1)予約忘れに対する定期的な指導の継続 (2)通常事業でのタブレットの積極的な活用、オンラインによる英語交流など、外部講師による講演、ゼミの遠隔実施、プログラミングゼミの実施 (3)事業内容の検討	(1)令和3年度と同様 (2)小中高生が主体として活用する (3)検討内容に基づいた事業の実施

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略5:持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成等)

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略5:持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成等)	① コンパクトシティの推進	建設課	本市のコンパクトシティの推進は、人口減少・少子高齢化が進展するなかで広域分散した市街地形成により行政運営が非効率な状況を踏まえ、地域活力やコミュニティの維持、将来的なまちづくりに資する取組の推進による持続可能な地域社会の構築に向けて、都市計画の基本的な方針である「夕張市まちづくりマスタープラン(H24・R2改定)」を策定した。 また、加速する人口減少による地区人口の低密度化や多大に保有する公共施設の老朽化、土砂災害警戒区域の指定などを受け、安心して住み続けられる都市づくりを行うため、都市機能や居住に関する誘導方針を示す「夕張市立地適正化計画(R2)」を策定した。 都市機能や居住を誘導する拠点と位置付ける地区において、生活利便性の高い拠点の形成とともに居住の充実を図り、夕張に住み続けられる環境づくりと住みたくなる魅力的なまちづくりに向けて、取組を進めることとしている。	夕張市まちづくりマスタープラン・夕張市立地適正化計画	<将来都市構造> ・3拠点地区(若菜・清水沢・紅葉山) 都市機能及び居住が集積する地区と位置付け、市内での生活や交流を支える機能や居住の誘導を図り、地区の特性を活かした魅力的かつ生活利便性の高い拠点を形成する。 ・地域再編地区(本庁、南部、真谷地、楓・登川) 地区内での生活サービス・コミュニティの維持・充実を図る地区と位置付け、現居住者との対話を重ね、安心して暮らし続けることができる取組を推進する。 ・生産地区(沼ノ沢、富野、滝ノ上) 夕張の一次産業である農業(夕張メロン等)を支え、守る生産地区と位置付け、生産空間の維持・保全を行う。	・老朽化が進む公共施設の再編により都市機能を強化と生活環境(ライフスタイル等)に応じた住環境の整備により拠点形成を推進	-	-	-	<関連事業 ※主なもの> ・H23年度～ 市営住宅再編事業(南清水沢・清水沢を中心に移転立替え・ほか) (効果:老朽市営住宅の縮減:▲約850戸) ・H28年度～ 民間賃貸住宅建設促進事業(南清水沢・紅葉山・若菜) (効果:人口減少抑制:(H22～R2) 市内平均 31%減 →南清水沢平均 10%減) 拠点複合施設「りすた」完成(R3.3.1供用開始) (効果:公共施設面積の削減:▲約3,200㎡) ・R1年度 認定こども園完成(R3.4.1供用開始) ・R2年度 都市機能及び居住の誘導等に係るコンパクトシティ構想を策定 ・R3年度 公共施設等総合管理計画改定	・短～中期的な視点をもった施策の立案(「なに」を「いつまで」「どうやって」実行していくか) ・面的なハード整備(都市計画等)とソフト事業によるまちづくり(総合戦略等)の推進に向けた庁内連携。	・コンパクトシティ構想の実現に向けた庁内協議	・コンパクトシティ構想の実現に向けた庁内協議(総合戦略アクションプランの追加、見直し含む)
戦略5:持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成等)	② 持続可能な交通体系の維持	地域振興課	夕張市はかつての炭鉱の坑口付近に住宅が分布していた経緯から、現状においても人口分布が市の南北に分散している。住民の普段用いる交通手段としては、自家用車が占める割合が圧倒的であり、公共交通の利用頻度は決して高くないが、それぞれ1校に統合された小中学校への通学や、高齢者の通院など、市民生活の根拠を支える意味での存在意義は大きい。一方、市内の路線バス運営に際しては、国及び市から多額の助成金が交付されているが、利用頻度に反して助成金額は年々増加傾向にあり、市の財政状況を大きく圧迫する一因となっていた。 こうした状況に鑑み、市は平成25年3月に「夕張市生活交通ネットワーク計画」を策定、交通体系の効率化、デマンド交通の導入等を掲げており、南部地区においては、平成27年11月～平成28年1月及び平成28年8月～平成29年3月の期間でデマンド交通の実証実験を行い、平成29年4月から本格運行しており、真谷地地区においても、平成29年10月からデマンドバスの運行を開始している。楓及び滝ノ上地区においては、タクシー乗車代金補助制度を導入しているほか、それぞれの地区において、スクールバスの一般混乗化を行っている。 平成31年4月からは、JR石勝線夕張支線の廃止に伴い、その代替交通として南北軸10往復の路線バス運行を開始し、令和2年3月の拠点複合施設供用開始に合わせ、全ての系統において施設内へ乗り入れしている。	夕張市生活交通ネットワーク計画・夕張市まちづくりマスタープラン	コンパクトシティゆりばりの実現に向け、南北を軸とした市内公共交通を再構築するとともに、需要に見合った交通モードの導入等を通じて、持続可能性を拡大する。	・交通結節点の整備 南北の幹線を軸とした地域公共交通体系の再編を加速。 ・デマンド交通等新たな交通モードの導入 需要に見合った交通体系を構築し、持続可能性を拡大。	-	-	-	・交通結節点整備 人口分布が市の南北に分散している現状を踏まえて、南北幹線を軸とした公共交通体系を構築する中で、清水沢地区は拠点複合施設の整備によって南部及び真谷地と当該軸を結ぶ結節点としての機能を持つこととなり、拠点複合施設開設までの間は仮設交通結節点「バスまちスポット」を整備し、令和2年2月まで運用した。 拠点複合施設が、令和2年3月から供用開始となったことから、南北軸を結び運行している全ての路線バスが拠点複合施設内に乗り入れることとなり、デマンドバス等との乗り継ぎなど交通結節点としての運用を開始している。 また、平成30年度には、JR北海道の協力により、紅葉山地区において、南北軸と楓・登川、真谷地等を結ぶ結節点として新夕張駅の機能拡充を実施した。 ・デマンド交通等新たな交通モードの導入 南部(平成29年4月1日～)及び真谷地(平成29年10月1日～)においてはデマンド交通を運行している。平成30年4月から真谷地地区において、乗降車を一部拡大し利便性の向上を図ったことで、登録者数及び運行率は増加している。 また、楓及び滝ノ上地区においては、タクシー乗車代金補助制度を導入している。さらに、スクールバス事業においては予約システムを導入し、需要に見合った運用を実施したことで、運行費の節減につながっているところである。 ・令和2年度には、コープさっぽろ清陵店の移転に伴い、同店を利用するお客様の要望に応え更なる利便性の向上を図るため、夕張鉄道(株)が運行する路線バスの一部経路変更を行った。 ・令和3年度は南北10往復の路線バス運行の維持のため、夕張鉄道株式会社へ新規バス1台購入に対する補助(石勝線代替輸送確保基金)を行った。	・南北10往復の路線バス運行開始後の利用促進。 ・交通事業者の担い手不足 ・市外線路線バスの利用者減	持続可能な交通体系の維持 ・南北軸における路線バスを中心とした交通体系の維持 (路線バス、デマンド交通、タクシー乗車代金補助制度、スクールバス) ・利用実態調査(4,620千円)を実施し、実態に即した適正な運行体系への見直しの検討(夕張市公共交通協議会での協議)	・夕張市公共交通協議会での協議結果を踏まえ、住民説明を丁寧に行いながら、持続可能な運行体系の維持を図る。

第2回第2期夕張市総合戦略検証委員会資料(進捗状況等)

戦略5:持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成等)

戦略名	アクションプラン名	担当課	経過・現状	関連計画	施策目標・目的	施策の取組・推進体制等	KPI			令和3年度までの進捗・事業効果	事業実施上の課題	令和4年度の取組(予定)	令和5年度以降の考え方
							目標値	現状値	達成度				
戦略5:持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成等)	③ 地域コミュニティの維持	市民課・消防本部	夕張市まちづくりマスタープランにおいて“地域コミュニティの維持を図る”との記載はあるが、全庁的な具体的な方策がなく、実質、各地域に委任する状況が続いてきた。 【令和2年度から】 ・各地域における生活館・コミュニティセンター指定管理者との意見交換会を実施し、地域活動の継続に向けた課題や避難所機能への対応に係る意見の聞き取り ・各施設における暖房・衛生設備の機能改善や防災備品の設置、大幅な運営費補助額の見直し等を行った。	夕張市まちづくりマスタープラン、夕張市地域防災計画	コンパクトシティを推進する一方で、各地域内のコミュニティ機能が衰退することを避けるため、各地域との課題や可能性についての議論を継続していく。また、各地域共通で不安を抱える災害時対応については、自助、共助のによる防災力の向上を図る。	・令和2年度に各コミュニティ施設(21カ所)に設置した発電機等の機器材の作動点検を全ての施設で実施した。このことにより各コミュニティ施設の管理者・自治会役員からは、地域における重要な取組みとして定着させていきたいとの意向が示され、防災に関する意識は高まりつつある。 ・地域コミュニティの課題や可能性は様々な要因が関連することから、行政の縦割り意識による弊害の改善を図りながら推進していく。	安全安心備品の設置(21施設)	21施設に設置	100%	・各コミュニティ施設の管理者・自治会役員において災害発生時の自助・共助に対する意識が高まりつつある。 ・各生活館、コミュニティ施設の維持管理収支が改善される。	【地域・集落】 ・組織方針(ビジョン)の共感、推進力のあるリーダー、協力者・後継者、事業資金の4つのバランスの確保 【行政】 ・地域との対話不足(課題認識が出来ていない)、縦割り発想、バラバラな取組み	【令和3年度継続事業】 ・21施設での設置備品の作動点検 【令和4年度事業】 ・消防職員による防災講話(自助力を高める)と上記事業をあわせて実施予定 ・健康増進モデル集落の選定による新たな協働事業の推進	各地域の実情等に合わせた集落力(コミュニティ)維持と地域の安心安全づくりに向けた協働の取組により(例:生活館等での衣類収集や健康増進活動等)集落にお金が循環する仕組みづくり行っていく。
戦略5:持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成等)	④ 公共施設の更なるスリム化と活用ストックの機能充実	財政課	・平成18年度に策定した財政再生計画において『公共施設等は大幅に統廃合する』こととして、この間、施設の休廃止、売却等を実施。 ・市営住宅については、長寿命化計画(現在2期目)を策定し、政策空き家を設け集約化を図るとともに、建替えと除却を計画的に進めているところ。(R4.4.1現在管理戸数 3,110戸(353棟)) ・一方で、抜本的に見直した財政再生計画(平成28年度策定)に、拠点複合施設・認定こども園・市立診療所といった新規施設の建設を盛り込んだ。 ・上記施設建設による不用施設の発生、またコンパクトシティの推進と既存施設の更なる老朽化により、今後とも施設の集約化を推進する必要がある。	公共施設等総合管理計画、市営住宅等長寿命化計画、橋梁長寿命化修繕計画、公園施設長寿命化計画、上水道第8期拡張事業計画、下水道経営戦略、学校施設等長寿命化計画	長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化させ、公共施設の最適な配置の実現を目指す。	全庁的な取組として、各々が所管する施設について「橋梁長寿命化修繕計画」「市営住宅長寿命化計画」等を策定し、計画的な管理・修繕等を行っている。 また、複数の部署を跨いだ施設の集約化が図れるよう、所管が管理する施設の状況を一元的なデータにまとめたうえで、庁内情報の共有化を行った。	-	-	-	・財政再建計画、財政再生計画を推進するうえで行った施設の統廃合については、人的にも経費削減の面でも効果があったところ。 ・認定こども園の建設、それに関連する幼稚園、保育園の統廃合が完了した。 ・新たに「学校施設等長寿命化計画」を策定した。 ・国からの通知を受け、R3年度に公共施設等総合管理計画を改定した。	・施設統合や、廃止施設の管理・除却にかかる経費の財源確保。 ・地域住民の理解。	・市立診療所の建設。 ・市営住宅再編に係る老朽住宅の除却(継続)。 ・不用公共施設除却工事の実施。	・総合戦略の有無に関わらず、公共施設等総合管理計画に基づき公共施設のスリム化、集約化、長寿命化の取組を継続していく必要がある。 ・市営住宅再編事業はR2年度に実施した市営住宅等長寿命化計画の見直しを受けて更なる老朽住宅の除却と改善事業を進める。 ・不用公共施設除却工事の実施。
戦略5:持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成等)	⑤ 持続可能な行政体制の構築	地域振興課	北海道などからの派遣職員を受けながら何とか行政体制を維持している状況ではあるが、「地域再生への取り組みを進めつつ財政再生計画終了後を見据えた体制を確保することが必要であることから、人口規模が同程度で職員数が最も少ない他都市の水準を基本」とする財政再生計画に基づき計画的に職員採用を行っている。また、限られた職員により持続可能な行政体制を構築してため、職員研修などにより職員の資質向上を図り、市政を担う人材育成に努めている。	-	財政再生計画に基づく職員数を確保するとともに、特に若い職員の資質向上を目的とした多様な研修を実施することや、業務プロセス等の標準化やICTを活用しスマート自治体の実現も視野に入れた取組も検討し、持続可能な行政体制の構築を目指す。	・採用試験の受験者を確保や採用辞退者の減を図るために、職員の給与改善や市の取り組みのPRなどを実施。研修においては、北海道などからの派遣職員に指導的役割を担っていただくとともに、積極的な職員研修を実施。 ・効率的なICTを活用できるよう、システムの標準化及びガバメントクラウドへの移行を検討している。	-	-	-	・派遣職員を含めた職員数の見直し。 ・コロナ禍におけるICTを活用した取り組みとして、行政サービスの低下を防ぐため、市職員のテレワーク体制整備に係る機器を導入した。また、Zoomを活用したオンラインによる研修や会議への参加を可能とする機材等の整備を行った。 ・若手職員の育成のため、総務課にて定期的な研修を実施した。 ・南空知圏域広域連携加速化事業(南空知9市町)のICTインフラ専門部会において、ICTインフラの研究・活用について連携して検討・情報共有を行った。	職員採用試験の受験者が減少する中、特に技術系職員(土木・水道、建築、保健師等)の人材確保は困難を極めている。	・市長、副市長、総務課長などを講師とした積極的な職員研修を実施。 ・引き続き、北海道市町村職員研修センターの研修を活用し、職員の資質向上を図る。 ・令和3年度から実施している、空知総合振興局との人事交流を継続する。 ・市の各事業に係るシステムの標準化及びガバメントクラウドへの移行の方向性の決定。 ・南空知圏域広域連携加速化事業に引き続き参加し、ICTインフラの研究・活用について南空知で連携して検討・情報共有を行う。 ・職員給与削減率緩和のための協議。	・これまでの取り組みを継続しながら、財政再生計画終了後を見据えた持続可能な行政体制の構築を目指す。 ・市の各事業に係るシステムの標準化及びガバメントクラウドへの移行の方向性の決定。 ・南空知圏域広域連携加速化事業に引き続き参加し、ICTインフラの研究・活用について南空知で連携して検討・情報共有を行う。